

なっぎょん

巻頭特集

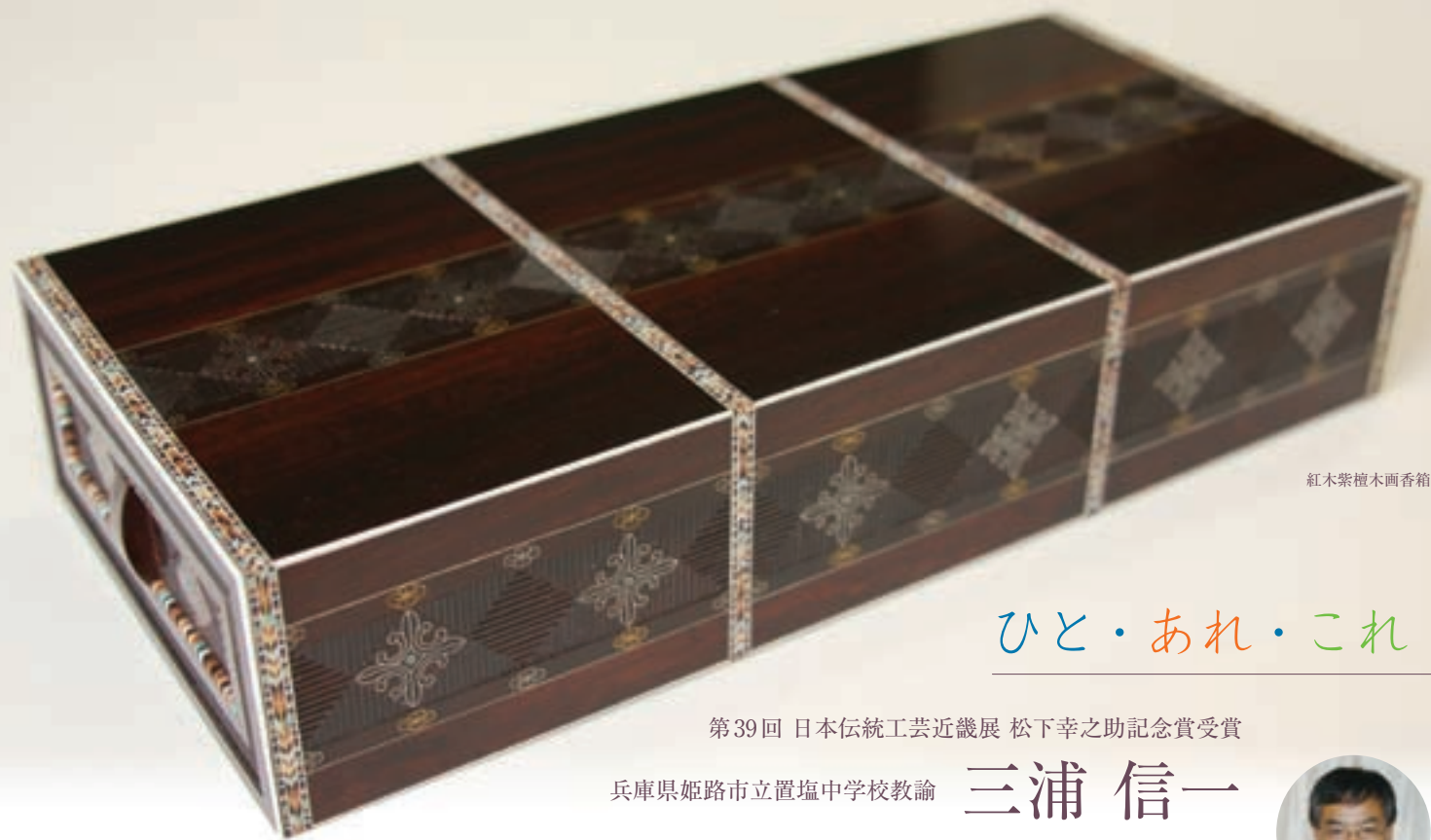
よみがえる！新薬師寺旧境内

- ◆ お隣の国、韓国での短期留学プログラム
- ◆ どんこワークショップイン 附属幼稚園
- ◆ ぶらり散策シリーズ 入江泰吉記念 奈良市写真美術館



奈良教育大学
イメージキャラクター
「なっぎょん」

秋
2010



紅木紫檀木画香箱

ひと・あれ・これ

第39回 日本伝統工芸近畿展 松下幸之助記念賞受賞

兵庫県姫路市立置塩中学校教諭

三浦 信一

日本工芸会正会員
(昭和58年3月 教育学部 卒業)



大学を卒業して、30年近くになりました。学生時代は、よく奈良の町を散策し、博物館等の見学や、ふとした街角に飾ってある古いものまで、強く興味をひかれてよく見て歩いたものです。私の工芸製作との出会いは、そうした古都奈良での生活の中から感化され、自然と導かれたものだと思っています。30年も休まず作品製作を続けていると、階段を一步一步昇っていくようなもので、少しずつ不可能だったことが可能になってきました。

私の場合、正倉院の工芸品のデザインや技法などについて研究を継続しています。今回出品した作品も、材料から技術に至るまで正倉院御物の影響を強く受けています。これらの多くは、金属、角、象牙、和木から唐木まで様々な材料を用いて「美」を表現しています。

私の元にも多くの人からのお世話で様々な材料が集まり、今回の作品となりました。今後とも与えられた機会と幸運をしつかり受け止め、製作態度を変え、ことなく作品製作に専念していく所存であります。

ひと・あれ・これ



五木拭漆木皿

第39回 日本伝統工芸近畿展 大阪府教育委員会賞受賞

大阪府松原市立松原第七中学校教諭

天野 豊

日本工芸会正会員
(昭和53年3月 教育学部 卒業)



私と木工との出会いは大学で技術科に入学してからです。当時の栗栖宏治先生から教科の基礎として木工の手ほどきを受けました。初めて鉋を研ぎ木を削り、体験した中で特に強く興味を持ちましたのは、剝物という技法でした。木のかたまりから、盆や盛器を削り出す技法に惹かれ自分もやってみたいと思いました。また、在学中に日本伝統工芸展作家の黒田辰秋氏の展覧会があり、その作品を見て木工には更に高みが有ることを知り、この世界に深く引き込まれてしまいました。在学中は土曜も日曜もなく木工漬けの毎日でした。

中学校の教員として勤めだしてから作品を制作し続けてはいましたが、自分自身の中で壁に突き当たった気持ちがありました。

その後、人間国宝の村山明先生に教えていただく機会を得ました。先生からは作品への厳しい見方、感覚について今までの自分がいかに甘かったかを学びました。伝統工芸展に出品してからは、この道こそが自分の道と思うようになりました。また、伝統工芸木竹展や近畿展で賞を頂き大変励みになりました。

今後は私もさらに精進を重ね、若い人達に日本の伝統を伝える事にも力を注いで参りたいと考えております。

ひと・あれ・これ2

特集 よみがえる！新薬師寺旧境内4

お隣の国、韓国での短期留学プログラム8

教師力サポートオフィスの開設10

地域ぐるみでこどもを育む こどもパートナー・スクールサポーターの養成11

ぶらり散策ガイド〈入江泰吉記念 奈良市写真美術館〉.....12

教員研究紹介 クローズアップ 准教授 掘越 紀香14

ラボ・レター 准教授 中村 元彦16

どろんこワークショップ in 附属幼稚園18



新薬師寺旧境内 (P.4～)



韓国短期留学プログラム (P.8～)



入江泰吉記念 奈良市写真美術館 (P.12～)



ラボ・レター (P.16～)

留学生レポート20

課外活動〈剣道部・軽音楽部〉.....22

大学祭紹介.....22

活躍する奈良教育大生.....23

奈良にいきづく仲間たち.....24

表紙解説

初秋、島根県出雲市立平田中学校の2年生約40名が修学旅行で本学を訪れ、古代の伝統技法を体験しました。

挑戦しているのは、臈縷(ろうけち)。現在のろうけつ染にあたる古代染織技法の一つで、この技法は正倉院宝物にも見られます。

布に溶かした蠟(ろう)で模様を描いて固まった後、草木(今回は紅花)から採取した染料で染め、その後蠟を落

として模様を浮き上がらせませす。真っ白なシルク布に筆で想いをメッセージに込めます。指導に当たっている文化財・書法芸術コースのみんなも生き活きと楽しそう。

今、教育資料館では、古代日本における装身具の一つである勾玉(まがたま)や中国・唐代に盛行し奈良時代に日本に伝わったとされる木版で印刷する仏画(摺仏)作り体験を開催して

いて、先人の知恵と技術を知る絶好の機会となっています。

体験後は、同館で開催中の『新薬師寺旧境内遺跡展』を見学して、復元模型などを前に、聖武天皇と光明皇后が織りなす歴史ロマンに触れてみられては・・・(『新薬師寺旧境内遺跡展』1月29日まで。古代伝統技法体験は毎週土曜日のみ開催。)

〔表紙題字〕名誉教授 池田桂鳳



新薬師寺の歴史

- 747年 光明皇后が聖武天皇(701-756年)の病氣平癒を願い創建（『東大寺要録』）
- 751年 49名の僧を招いて病氣平癒祈願（『続日本紀』）
- 780年 落雷で西塔が焼失（『続日本紀』）
- 962年 大風で七仏薬師堂（金堂）等が倒壊（『東大寺要録』）

現在の本堂（国宝）は、創建当時の食堂が壇院とされ、本遺構から東方150mに位置し、十二神将立像（国宝）を安置している。

調査地の北西隅付近の基壇内にあたる箇所には人頭大の巨大な礫群が検出されていました。精査すると四角い穴に礫を入れてあることが判明しました。方形の穴を掘り底部に堅固な版築を施しその上に礫を詰め込んでありました。最終的には6基が確認され、最大のもので一辺約3mありました。その形状から壺地業と呼ばれる礎石を据える地盤工事跡であることがわかりました。壺地業と壺地業の距離

問題！疑問！

良時代にかけて奈良を中心によく使われた岩石です。

発掘調査を開始して2ヶ月が過ぎてもなかなか寺院の遺構は検出され

平成20年に奈良教育大学の北東隅の建物が老朽化し建替えられることになり、約1400㎡の発掘調査を行いました。発掘調査はバームクーヘンの皮をめくるように新しい堆積層から掘り進めていきます。最上層は旧陸軍奈良聯隊の建物基礎やその庭園跡、進駐軍時代の水洗トイレの浄化槽跡など、近代の遺構が検出されました。次に、鎌倉時代から江戸時代の畑跡が検出され、明治に旧陸軍奈良聯隊が造られる以前は畑が広がっていたことがわかりました。新薬師寺や奈良教育大学のある一帯は「高畑（たかばたけ）」という地名であり、高貴な寺があったところが畑になったため高畑の名が生じたと言い伝えられています。その状況とよく一致しました。

新薬師寺は奈良時代の十二神将像（国宝）が唯一伝わる寺院です。奈良教育大学とは東西方向100mの位置関係にあります。古代の新薬師寺は現代の新薬師寺よりたいへん大きく、四町（440m）四方にわたり七堂伽藍が建ち並んでいました。奈良教育大学のキャンパスが半分以上含まれる広大な敷地でした。平安時代に大風によって主要伽藍が転倒倒壊し、今ある本堂のみが残りました。

発掘調査開始

ず、聯隊の造成や開墾によってまったく残っていないかのように思えました。その矢先、調査地の中央部や

や北よりから東西に走る幅約1mの溝状の遺構が検出されました。その中から布目瓦が顔を覗かせ、黄色みを帯びた石も顔を覗かせ始めました。ちなみに、布目瓦は、型で瓦を造るとき、型からはずれやすくするために、型と粘土の間に布を挟みます。そのため、瓦には布痕が残ります。奈良時代以外はそれを消して仕上げます。奈良時代の瓦だけが布目を残すので、通称「布目瓦」と呼ばれます。また、黄色みを帯びたその石は、凝灰岩という岩石で、古代の寺院建物の基壇の周りに積み並べて使うものでした。寺院建築では屋根に多量の瓦が乗りたいへん重たくなるため、柱が沈み込まないように版築などを施した基礎である基壇を造ります。調査が進むと、約40cm幅で長さ約1mの大きさの凝灰岩が東西に列をなして検出されました。南側には溝が沿っていました。凝灰岩の列は基壇の周りに積み並べられる石組の最下段の「延石（のべいし）」という石列でした。南側の溝は雨落ち溝で、その中には多量の布目瓦が堆積していました。この延石は二上山の凝灰岩で、法隆寺の基壇や平城宮の大極殿の基壇、藤ノ木古墳の石棺や高松塚古墳やキトラ古墳の石槨など古墳時代から奈

を計測すると柱と柱の間隔がわかり、建物の構造や規模につながります。基壇建物は東西方向が柱間は4.2ないし4.5m（十四ないし十五尺）、南北方向が柱間3.9ないし4.2m（十三ないし十四尺）と計測されました。奈良時代の一尺は約30cmであり、この規格は奈良尺とよばれます。この段階でいくつかの疑問が生じてきました。基壇は東西の幅が50m以上の長大なものとなりますが、東大寺大仏殿を除けば奈良時代最大の建物になってしまいます。さらに、延石と雨落ち溝が東西にまっすぐ続き階段が見当たりません。建築の研究者からも疑問が投げかけられました。建物の軒が雨落ち溝まで当然延び

特集

よみがえる！新薬師寺旧境内



理科教育講座(古文化財科学)

教授 金原 正明

中央の延石列と雨落ち溝（東から）



東南部延石列と雨落ち溝（北北東から）



礎石据付掘形（地固め石）― 壺地業 ―



基壇全景（西から）
※ 現在は埋め戻しており、見学はできません。



るのだが、壺地業の中心である柱の位置から雨落ち溝までの距離が6.5m（二十尺以上）もあり、構造的にも技術的にも無理があり当然当時の建物では類例がないということでありました。

説明、そして さらなる問題

調査は基壇建物の大きさを確認するため、延石と雨落ち溝の列を東に延長したラインで東側の大学構内いっぱいの地点にトレンチを設定して継続しました。その結果、東側で延石列と雨落ち溝は北に90度曲って約2m続いた後に、東へ90度折れてクランク状になって続いていることがわかりました。最初に検出された東西に走る長大な延石列の約2m後ろ東北側に平行する東西に走る延石列が存在していたのです。この構造から後ろ側の延石列が基壇本体のものであり、最初に見つかった南側の長い延石列は階段部であることが判明しました。階段部の突出は約2mあり、古代の階段の角度がほぼ四十五度であることから、基壇の高さも同じ約2mであったこととなります。これで調査途中に生じた最大の問題も含めすべて説明されることになりました。軒が長すぎるという問題は、基壇本体である約2m後ろの北棟側の延石と沿う雨落ち溝のラインまでなら、壺地業の中心のラインからほぼ

4.5m（十五尺）の距離になり、軒の出もちょうどよくなります。そして階段部では階段の upper に屋根から雨が落ち、階段をつたって前の雨落ち溝まで流れ落ちる構造になります。

雨落ち溝からは多量の布目瓦だけではなく、奈良三彩片と灯明皿の細片も出土しました。灯明皿は十世紀の型式のもので、この基壇建物が少なくとも十世紀まで存続していたことを示していました。これは応和二年（962年）の大風により七仏薬師堂等が転倒倒壊するという『東大寺要録』の記事とよく一致する結果になりました。発掘調査からこの大型基壇建物は桁行十三間で約60m、軒まで入れると約69m、基壇の幅もほぼ同じ約68mに復元できました。総国分寺東大寺の金堂である大仏殿を除けば、平城宮の大極殿より大きく、奈良時代最大の建物になってしまします。大きさと基壇の高さから金堂とならざるをえず、記録にある新薬師寺の七仏薬師金堂にあたるものとみなされます。しかし、七仏薬師金堂は『東大寺山界四至図』（正倉院）には七間で描かれ、『東大寺要録』では九間仏殿とあり、大きさは一致せず問題も残ります。

最後に、多くの学生がこの調査とさらなる解明のために継続して行われている確認調査や復元実験、教育資料館での公開展示に参加し、実践的に学んでいます。



左) 韓国の学生との昼食
下) 国立公州大学校 附属学校の見学



お隣の国、韓国での短期留学プログラム

韓国への夏季短期派遣留学プログラムの実現

本学では、7カ国11大学との間で国際交流協定を締結しており、8ヶ月～1年間の長期派遣留学制度を実施しています。長期留学は、腰を落ち着けて海外の生活に慣れることがらじゅくりと勉強に励めることがメリットですが、経済的な負担が大きいことや、所属コースによっては卒業が遅れる等の不安材料もあります。このような理由から、留学に興味があるものの諦めているという学生さんのために、長期休業期間を利用した短期派遣留学制度を検討してきました。

その結果、韓国の2大学への夏季短期派遣留学プログラムが実現可能となり、広く参加募集を呼びかけています。まず、本学と長い交流のある嶺南大学校からは平成20年度より『姉妹大学研修プログラム』への招へいがあり、平成21年に国際交流協定を締結した国立公州大学校では『韓国語・韓国文化短期留学プログラム』韓国語集中コース・韓国教育現場

を行く」に今年度から、本学も参加させてもらえることになりました。双方とも、大変充実したプログラムが組み込まれており、協定校であるがための特典も大きいです。

それぞれのプログラム内容

嶺南大学校の『姉妹大学研修プログラム』は、9日間で構成されており、簡単な語学研修、韓国伝統文化体験、農村体験、ホームステイ等、韓国という国や文化を多方面から学べるスケジュールが組まれています。韓国語を集中して勉強するというよりは、韓国に興味があり、深く知るきっかけにしたいという方にお薦めです。本プログラムは、嶺南大学校からの招へいのため、現地での食事、宿舍、文化体験等の料金は全て先方負担で、参加学生は自宅から釜山空港までの往復移動費と海外保険料のみで参加することが出来ます。ただし、毎年2名までという募集人数の制限があるので、応募者が多数の場合は、別途審査を行います。

国立公州大学校のプログラムは、

2週間で30時間の韓国語授業が組み込まれており、初級・中級・上級のそれぞれの1クラスが10人～15人で編成されています。語学研修以外にも、韓国文化体験や、ユネスコ世界文化遺産探訪、教育機関訪問などが組み込まれており、韓国語・韓国文化とともに深く集中して学びたいという方にお薦めです。本学の学生は協定校参加費で割安で参加することができ、原則として希望者は全員参加することが出来ます。

【参考：平成22年度の参加費は8万円（自宅からの往復移動費及び海外旅行保険料は別途必要）】

短期留学という選択肢

今後、韓国での短期派遣留学プログラムに継続して参加することにも、短期留学の選択肢を増やすことも検討中です。気軽に留学体験をしたい、短期間で集中して語学力を身につけたい、まずは短期留学をしてから長期留学を検討したいなど、様々な活用の仕方がありますので、多くの学生が参加することを望んでいます。

お問い合わせ

学生支援課留学生担当

0742・27・9148

※プログラムの内容・料金は年度により変更されることがあります。



国立博物館の見学



授業の様子



確認テスト



民族村の見学



韓国語講座



嶺南大学校キャンパスツアー

韓国・韓国文化短期留学プログラム 国立公州大学校 体験記



学校教育教員養成課程 言語・社会コース 3回生
井上 明日穂（奈良県立畝傍高校出身）

私たちは共同スペースとして食堂や洗濯室、PCルーム、フィットネスルームもある大学の寮で生活していました。ほぼ毎日の朝食・昼食は食堂でとっていました。時折、韓国語の授業が終わった後に友人たちと大学周辺のお店へパピンス（フルーツやソフトクリームがのせてあるかき氷）を食べに行ったり、チムチルバン（専用服を着て入る大きなサウナがある銭湯）へ汗をかきに行ったりしました。生活の中で感じる「韓国」も楽しかったです。

韓国語授業だけでなく、公州大学校とソウル教育大学校それぞれの附属学校を訪問させてもらったり、様々な資料館や博物館、世界遺産へ連れていってもらったりと、本当に充実した時間を過ごすことができました。

大学生活も後半戦に入った3回生の夏に、ほんの少しですが世界を知ることができました。そろそろ教員採用試験の勉強をしていかなければなりません、色々なことに興味をもち、チャレンジしていく姿勢をこれからもずっと持ち続けたいです。



学校教育教員養成課程 教育・発達基礎コース 2回生
脇 雅仁（奈良県立奈良高校出身）

今回の短期留学は2週間というとても短い期間ではあったけれども、内容がとても充実していて、僕にとっては何もかも初めての経験ばかりでした。初めての海外、初めての韓国語ということもあって、不安なこともたくさんありました。しかし、そんな不安も授業が始まるとどんどん消えていきました。レベル別にクラス分けされるので、同じレベルの人たちと共に学習でき、先生も日本語を交えながらとても丁寧に教えてくださいました。さすがに2週間では話せるようにはなりませんが、これをきっかけとしてこれからも韓国語を勉強していこうと思いました。僕の場合、韓国に興味を持ったのは、韓国料理がおいしそうだからということでも些細なことからでしたが、何かを始めるには、どんなことでもいいので興味を持つことが大事だと実感した2週間でした。

姉妹大学研修プログラム 嶺南大学校 体験記



学校教育教員養成課程 言語・社会コース 4回生
吉本 結衣（大阪府立三国丘高校出身）

私は韓国での研修を通して、生涯忘れられない思い出と、一生の友達をたくさん作ることができました。嶺南大学校での9日間は、歴史ある場所の訪問や、伝統楽器であるサムルノリの体験、日本語を専攻している学生との交流、ホームステイなど、一日一日がすごく充実していました。ご飯もすごく美味しかったし、有名な韓国料理は一通り食べることができました。そしてこの研修の一番の魅力は、日本全国の色々な大学から学生が集まること、嶺南大学校の学生がいつも一緒に行動してくれることだと思います。他大学の学生との交流は、とても新鮮で楽しかったです。また、韓国の学生はすごく気さくで明るくて、言葉が通じなくても、英語やジェスチャーで会話することで、とても仲良くなることができました。たった9日間だけど、帰る時に涙が止まらなくなるくらい、深い絆を作ることができました。冬に韓国から友達が会いに来るので、今からすごく楽しみです!!



学校教育教員養成課程 言語・社会コース 4回生
林 里奈（岐阜県立可児高校出身）

9日間の研修は韓国の歴史や文化、人等多くの魅力に触れることができ、とても充実したものでした。その中で得た「韓国と日本の多くの友人」は私にとって大切な宝です。研修では嶺南大学校と日本全国から集まった学生との交流が充実していました。初めは韓国語がほとんど理解できないため、上手く関われるかどうか不安に感じていました。しかし実際に韓国の学生と会ってみると、同年代ということもありすぐに打ち解け、交流を楽しむことができました。そして文化等を含め、互いを理解し合ったことで仲が深まり、毎日の研修がさらに充実したものとなりました。この研修は私に人とのつながりの大切さ、コミュニケーションの楽しさを改めて気づかせてくれました。今後も嶺南大学校と奈良教育大学の交流がさらに盛になると良いと感じました。そして今度は私たちが韓国の学生に日本の魅力を伝えていきたいと思いました。

教師力サポートオフィスの開設

プロジェクトの概要

先端的な教職科目体系のモデル開発プロジェクト(略称:教師力モデル開発プロジェクト)は、平成22年度から平成24年度の3年間のプロジェクトとして、国の概算要求特別教育研究経費(高度な専門職業人の養成や専門教育機能の充実に採択されました)。

このプロジェクトでは、教職専門科目群と教育実習科目群を再編・体系化することなどを通して、奈良教育大学の学生に「卓越した教師力」を育成することをめざしています。そして、学生が教職の意味、役割、知識・技能、課題などを把握することを助け、より



積極的に自らの学びを組織化し、教育実践力の獲得を支援する体系的なシステムづくりを行います。

本プロジェクトは「ふかめる」「めざす」「つなぐ」「ささえる」の4つの柱のもとで取り組みを進めています。「ふかめる」では、人間として必要な「いきる」「つながる」「つくる」というキーワードを基礎として、教師として必要な資質・能力である「学校教育の課題把握」「授業力」「児童・生徒理解」「学校と地域社会との連携」「職能成長」の中身を明らかにするとともに、これらを育成する過程・方法を探ります。「めざす」では、学生がめざす教師像を明らかにするために、「教師力100冊」の選定、教職検定、教職ノートの開発に取り組みます。「つなぐ」では、教職専門科目や教育実習科目を中心とした授業科目に、内容的・方法的な関連づけを行います。そして、「ささえる」では、教師力サポートオフィスを拠点とし、学びの組織化をはかることをめざしています。このような取り組みの遂行を通して、先端的であり、かつ汎用性のある教員養成モデルを提案していきます。

教師力サポートオフィスの役割

本プロジェクトの実施にあたって、学内に教師力サポートオフィスを設置しました。平成22年4月からプレオープンし、9月1日に正式にオープンしました。オフィスには、



准教授
柴本 枝美
(プロジェクト担当)

プロジェクトの専任教員として着任した柴本枝美准教授と、高良綾子事務補佐員の二人が常駐しています。オフィスは、月々金曜日の10時から17時まで開いています。教師力サポートオフィスの主な役目は次のとおりです。

- ・教職専門科目群の設計、実施、評価改善
- ・教職専門科目群についての学習支援(教職ノートの点検、評価、指導助言など)
- ・教職検定(仮称)の実施
- ・ロールプレイ教材、ケースメソッド(鍵の場面)教材の開発
- ・WEB上での学びの組織化プログラム開発
- ・附属学校園との連携
- ・地域の公立学校、教育委員会との連携

教師力サポートオフィスでできること

さて、この教師力サポートオフィスの主役は、いうまでもなく学生のみなさんです。一人でも多くのみなさんに活用してもらいたいと考えています。

オフィスに足を踏み入れて、まず右手に本棚が目に入ります。これは、(教師力100冊)を配架した棚です。(教師力100冊)は、教師力を高め、可視的なものにすることを目的として、本プロジェクトに関わっている大学教員や附属学校教員、オフィスを活用している学生のみなさんから推薦のあった図書を配架しているものです。学術的なものから、マンガを題材にしたものまでさまざまな本が揃っています。また、教育をテーマとしたテレビドラマや映画のDVD・VTRもあります。ここに所蔵されている図書やDVD・



准教授
林 美輝
(教育支援人材連携事業担当)

の研修を受けることで「スクールサポーター2級」の認定を受けることができます。今年の春に実施されたスクールサポーター研修では、合計約200人の学生が参加し、160名以上の学生が「スクールサポーター2級」の認定を受けました。そして、実際に学校等の教育活動の支援を10回以上行い、学んだことを報告書にまとめ、夏・秋に講習や中間研修を受けることで、最終的に「スクールサポーター1級」として認定されることになります。さらに、「スクールサポーター1級」の認定者は、「6大学連携教育支援人材育成事業」の「子どもサポーター」申請の要件を満たすこととなります。

子どもパートナー養成講座・ 子ども通学合宿サポーター

大学生の他、地域住民による教育活動支援としては、「子どもパートナー養成講座」と「通学合宿サポーター研修」等を実施しています。子どもパートナー養成講座では、前述の6大学による共同開発のカリキュラムに基づき、子どもとの接し方、発達や障害、変わりゆく学校等に関する講義を受けることになっています。9月11日(土)に行われた同講座では、五時間にもわたる長時間の講座にもかかわらず、事前の申込みが殺到し100名近くになるなど、たいへん盛況でした。

通学合宿とは、地域の子どもの達が、地域住民のサポートの下で、公民館等に宿泊しながらいつものように学校に通う取り組みです。奈良県では、くらし創造部・協働推進課の「地域の教育力」向上事業の一環で、この取り組みに補助を行っています。本学では、奈良県・奈良県教育委員会との合同の主催により「通

VTRは、閲覧、貸し出しが可能です。

そして、本棚を右手に少し入ると、テーブルと椅子が置かれたスペースがあります。この場所では、学生主体の活動を行うことが可能です。これまでは、4回生が主体となって、教員採用試験に向けての模擬授業のリフレクションや、ディスカッションの振り返りなどを行ってきました。今後は、教育実習やスクールサポーターなどのリフレクション、学生主体の学習会の場として活用していただけたらと考えています。

このほか、教師力サポートオフィス主催の企画についても検討しています。最初の取り組みは、大学祭での企画になります。10月28日、29日は、学生が主体となり、教育実践に関わるビデオを見てディスカッションを行う企画を実施します。30日には、教師力サポートオフィスが主催となり、「先輩教師に学ぶ」というテーマでの講演と座談会を予定しています。

以上のようなサポートオフィスの取り組みを通して、学生のみなさんが、自然に教師という職業により強い関心を持ち、理解を深めてほしいと考えています。ぜひ一度、サポートオフィスに足を運んでみてください。

お問い合わせ

教師力サポートオフィス
(文芸棟 R12・107)
0742・27・9271
http://www.nara-edu.ac.jp/TCF/
kyoshiryoku@nara-edu.ac.jp

学合宿サポーター研修」を行い、これらの取り組みにかかわるサポーターが必要な基本的知識等を学ぶ機会を設けています。すでに6月19日と9月11日に実施され、サポーターとなる地域住民の皆さんが学びを深める機会を提供することができました。

おわりに

以上、紹介してきたものの多くは、子どもを対象とした教育支援人材の研修に重点を置いたものです。しかしその意義はそれにとどまるものではありません。一人ひとりの子どもを大切にするために行われる教育支援人材の研修は、教育を核としながら、全ての人にとって住みよい共生社会づくりに寄与するものでもあると思います。

お問い合わせ

教育支援人材連携事業運営室
(理科2号棟 R2・303)
0742・27・9350

参加学生の声

教育学部学校教育教員養成課程
理科生活科学コース
理科教育専修 3回生
(大阪府立八尾高校出身)

中川 明宏さん



スクールサポーター研修では、様々な教育方法や子どもとの接し方、危機管理など普段の講義ではあまり聞くことがない内容を丁寧に講義してくれました。ただ講義を受けるだけでなく、教師でも子どもでもなく、支援者として教育の現場を経験することも出来ます。やはり、現場に行くと、講義とは異なる点や新たな体験が多くあります。講義で学んだ内容を生かしたり、新たに学んだりする機会が多くあります。スクールサポーター研修は非常に有意義な時間を私に与えてくれています。

教育を支える人材の研修・認証等の実施

教育支援人材とは、学校や公民館等で行われる教育活動を支援する人々を指します。このうち学校教育活動を支援する大学生や地域住民のことを「学校支援員」あるいは「スクールサポーター」と呼びます。文部科学省の学校支援地域本部事業に象徴されるように、近年、学校近隣の人々による学校支援はますます盛んになってきています。

ただし、大学生や地域住民がかつて子どもであった頃と比べて、現代の子どものや学校をとりまく社会的文脈は大幅に変化し、そういった変化の中で子どもや学校を理解し、支援していくことの重要性もますます指摘されるようになってきました。

こういった流れの中で、本学と東京学芸大学を中心とする六つの大学が文部科学省の補助を受けて立ち上げた「6大学連携教育支援人材育成事業」が、2008年度よりスタート



左から：高橋豪仁教授、加藤久雄副学長(国際交流・地域連携担当)
林美輝准教授、片岡弘勝学長補佐(地域連携担当)

流一を経験することで、教職以前に人として成長する機会にもなるかと思っています。教育支援人材連携事業運営室では、このような学生による学校支援活動が、地域の学校教育活動に寄与すると同時に、学生自身の様々な能力の成長に寄与するために「スクールサポーター研修・認証制度」を設けています。これは、奈良教育大学の学生に限らず、他大学の学生をも対象にしています。

まずは春頃に三時間程度



入江泰吉記念 奈良市写真美術館

奈良市高畑町600-1 電話：0742-22-9811

【アクセス方法】

◆JR奈良駅・近鉄奈良駅から、市内循環バスで「破石町」下車、
東へ徒歩約10分、新薬師寺西側。

◆本学正門から、外周に沿って北東方向へ徒歩約10分。

入江作品は8万点以上収蔵しています。大半がフィルムで収蔵しており、カラー約6万点、モノクロ約2万点です。ジャンルは風景、仏像、伝統行事、万葉の花、大阪時代の文楽に大別できます。入江作品の他には、明治・大正時代に活躍した古美術写真の先駆者・工藤利三郎の作品約1300点（内、ガラス乾板1025点は2008年に国登録有形文化財に登録）や奈良県出身で全国の風景や自然を撮影している津田洋甫の「四季白樹



「夕景・夜景の撮りかた講座」



撮影実習



燈花（原さん撮影）

——どれくらいの写真を所蔵されているのですか。

まず、設計は世界的建築家の黒川紀章氏です。設計コンセプトは「歴史（伝統）と現代の共生・自然と建築の共生」がテーマとなっています。新薬師寺の隣ということもあって、その歴史的な景観を損なわないよう、屋根には瓦が葺かれています。建物の構造は、展示室や事務所など機能の大部分は地下に埋め込まれており、地上の外壁はガラスで覆われているため、瓦屋根がぼんやり浮かんで見えます。また、地下のギャラリーに面して水田をイメージした庭を設け、自然光を採り入れています。

——建物がすごくユニークですね。どのようなコンセプトで建てられたのですか。

入江作品で日本人の心のルーツを探る

するのではなく、自身が頭の中で思い描く情景になるまで待つて撮影するスタイルです。そこには一切の妥協は無く、一日中待ってもシャッターチャンスがこなければ撮影はしない方でした。

の詩」100点を収蔵しています。

——本学に隣接するという事で、大学生向けの活用方法などがあれば教えてください。

まず、入江泰吉作品を通して奈良大和路の風物を感じてもらうことです。そこから、入江氏の作品制作過程に不可欠である奈良の歴史や日本人の「心」のルーツを考えるきっかけにしたいということです。入江作品には奈良（日本のふるさと）の全てが詰まっています。

その他には、写真関係資料や仏像・古社寺に関する資料が数多く揃う資料閲覧室を多くの学生に活用して頂きたいです。

——今後、どのようなものを企画されていますか。

今年度展開する企画展としては、9月4日から11月14日まで開催する「平城遷都1300年記念入江泰吉傑作選——大和路——後期——展をはじめ、奈良の古跡・古美術を詠んだ歌人としても知られる會津八一と親交があり、多大な影響を受けた奈良の写真家（工藤利三郎・小川晴暘・入江泰吉）を取り上げて、奈良をどのように写真で表現しようとしたのか紹介する「工藤利三

——入江泰吉記念奈良市美術館は、いつごろできたのですか。

奈良を愛した写真家 入江泰吉

建設の話は1983年に遡ります。その年、入江泰吉・光江夫妻のお祝い会が奈良県知事や奈良市長らも出席して盛大に開かれ、当時の唐招提寺長老であった森本孝順師が祝いを述べられたなかで「入江さんの作品を保存し奈良のために役立てるべきだ。そのために県や奈良市が保存し公開する施設を建ててはどうか。」といった趣旨の発言をされました。会場からは賛同の大きな拍手が起こったといえます。このことがきっかけで写真美術館建設が動きだしました。実際に建設が始まったのは1990年7月11日で、開館は1992年4月13日でした。

写真美術館建設にあたって、入江氏は自身の全作品を著作権とも奈良市へ寄贈されました。作品を寄贈するケースは珍しくありませんが、著作権も寄贈するケースは極めて稀です。

——入江泰吉さんとはどのような人だったのですか。

入江氏を知る方やお弟子さんの話では、普段は優しく気さくでいつも微笑んでいるイメージ



ジだったそうです。しかし、いざ撮影に入ると、声もかけられないほど近寄りたがたい雰囲気になり、満ちるそうです。それほど一つの作品を創るのに集中し撮影していました。薬師寺元管主・故高田好胤師は「入江さんはジキルとハイドのようだ」と、表現しています。

また、大変な勉強家で、時間が空くとあらゆる書物をメモ用紙と広辞苑を傍らにおいて読み、作品につながることをメモされていたそうです。

——入江作品の特徴というのはあるのでしょうか。

入江作品（カラー風景作品の場合）の多くは「入江調」と評される作風です。自然現象や季節の移ろいを利用し、作品に独自の空気感を取り込んだものです。入江氏は奈良大和路を写真で表現するのに、過剰に鮮やかな色彩は不必要と考えていました。そこで、雨上がり、霧や靄が立つ頃、夕暮れ時、季節では早春、晩秋をねらって撮影し、大和路の深く重い歴史や無常の世界観を表現しました。

また、撮影スタイルとしては、とにかく「待つ」写真家でした。目の前にあるものを撮影

郎・小川晴暘・入江泰吉——會津八一と奈良の写真家——展などを開催する予定です。

写真美術館で「撮りかた」を学ぶ

訪れた日、奈良市内では、ちょうど奈良公園——帯を燈花で飾る「なら燈花会」が開催されていました。同館でも入口付近に燈花が並べられ、「燈花会in写真美術館」が開催され、同時に「夕景・夜景の撮りかた講座」も開かれました。

講座には、自慢のカメラや三脚をかえた写真愛好家の方々が集まり、講義を聞いたあと、実際に屋外に出て撮影実習が行われました。

日の入りを迎え、うっすらと西の空が紅色に染まった頃、ほのかにやさしく燈花が並びます。そんな燈花を多くの写真愛好家が一眼レフカメラでパシャッと狙うと、まるでひとつひとつの燈花が華やかなモデルとなって凛とたたずんでいるかのようでした。

奈良を愛し続けた入江泰吉氏の作品を観て奈良の移り変わりや、逆に変わらない部分の良さを、ここ入江泰吉記念奈良市写真美術館で見つけてみてはいかがでしょうか。

なっきょん's CLUB がゆく!

ぶらり散策ガイド

入江泰吉記念 奈良市写真美術館



大学のある高畑町は、かつて志賀直哉が暮らすなど文化人や芸術家などが集まっていた芸術に彩られた町です。光明皇后が建立した新薬師寺などもありとても落ち着いた雰囲気を感じさせます。今回はそんな高畑町にある入江泰吉記念奈良市写真美術館を訪れました。

入江泰吉記念
奈良市写真美術館
学芸グループ
木村真士さん

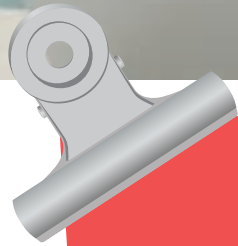
〈リポート〉
学生広報スタッフ
『なっきょん's CLUB』
学校教育教員養成課程1回生
(奈良県立登美ヶ丘高校出身)
原 佑輔さん



花よめ 3 人（！）につかまえられた花むごさん（年長児）



いざござのあと、仲直りしてボール転がし（年長児）



教 員 研 究 紹 介

クローズアップ

学校教育講座（幼年教育） 准教授 堀越 紀香^{ほりこし のりか}

この事例では、K太が「M樹に蹴られた」ことに怒って、いざござになります。保育者に仲直りを任された2人はきつかけをつかめずにいましたが、たまたま小石を投げたK太の腕が、M樹の頭にぶつかります。驚いたM樹はK太を見たあと、頭を叩きました。

仲直りの方略は叩くこと。

皆さんなら、このあとどうなと思いますか？再びいざござになると予想する方が多いのではないのでしょうか。しかし、K太とM樹は、予想を見事に裏切ってくれました。腕が頭にぶつかり、叩き返したことがきつかけとなって、一度は睨み合いながらも笑いへと転換してしまっただけです。これは、仲良しのK太とM樹の間だからこそ可能だったと考えられます。その後、4歳女児をカン

4歳女児	近くの水道に近づき、手を洗い始める。
M樹	女児の後ろに立ち、カンチョーしてぶざけて笑う。
4歳女児	不機嫌そうな顔で、M樹を見る。
M樹	アカンベの顔をして、K太と笑う。
K太・M樹	互いの頭を叩きながら「痛いよー！」「痛いよー！」「痛いよー！」「痛いよー！」と言い合い、2人で声を合わせて「痛いよー！ハハッ」と笑い合う。

将来子どもに携わりたい方には、是非「子どもをみる眼」を培ってほしいと願っています。子どもをみる眼とは、子どもの思いに共感しつつ、子どもの行動や言動全てをその子の表現と見なし、柔軟に理解しようとする眼（力）のことです。どうしてそのような行動をとるのか、その思いを見とるような心がけてください。「幼児と教育」「幼年教育学特講」などの授業を通して、少しでもお手伝いができればうれしいです。

メッセージ

私は、子どもが何か困難やよく分からないことに遭遇して、何とかやりくりしようとする姿（ぶざけ行動もその一例です）、試行錯誤しながら熱中し没頭している姿（知的行動）に惹かれます。また、近年私が小学1年生を観察するようになったのも、幼稚園・保育所から小学校への移行に伴って、子どもが小学校生活へ戸惑いながらも、何とか乗り越えようとしている姿を見ることができからです。今後は子どもを支える先生方の工夫や配慮も含めて検討したいと考えています。

子どもに惹かれる理由

チョーするぶざけや、叩き合って怒鳴り合うぶざけによって、いざござの緊迫した状況を緩和し、仲直りを成立させたのです。また、保育者が2人なら仲直りできると信じて任せたことも、K太とM樹が自分たちで何とか仲直りしようとする動機付けを高めたと考えられます。このように、仲間との関係性によって、いざござをどのように解決するかは異なります。時にはぶざけて緊迫した状況を和らげ、仲直りを促すこともあるのです。幼児もなかなかやりますね！

保育者	「K太くんは蹴られたのが嫌だったんでしょ。」 うなずく。
K太	「でも、ぶつかっただけで……」とわざとではないと伝える。
M樹	2人の話を聞いたあと、「あととは2人で相談しなさい。あなたたち、仲良しなんだから」と2人に任せてその場を離れる。
K太・M樹	並んで座るが、顔を合わさずに無言のまま。
K太	小さな石を拾い、園庭に向かって思い切り投げると、K太の腕がM樹の後頭部にぶつかる。
M樹	驚いたようにK樹を見て、K太の頭をボカッと叩く。
K太	M樹をジッとにらむが、顔をそらす。
M樹	顔をそらす、少し表情がゆるむ。
K太・M樹	互いに顔をそらしていたが、互い

研究について説明するために、まずは年長男児の事例をご紹介します。

【事例】（5歳児12月）2人で「痛いよー！」

K太が「M樹に蹴られた」と保育者を呼びに来る。保育者はK太と一緒にM樹のところへ行き、3人で話し合う。

今年4月に奈良教育大学へ赴任しました。幼年教育専修の所属です。私は学部生の中から、ビデオカメラを片手に幼稚園へ出かけて子どもの姿や保育者の援助を観察してきました。近年は幼稚園だけでなく、小学1年生の入学当初のようすも観察しています。

子どもの観察をしています

ラボ・レター

児童・生徒が、どのような事柄でも自発的に科学的・論理的に考えて行動できるかどうかは、科学する心がどれだけあるかに依り、その心を育めるかどうかは、教師が科学する過程を好感的に体験しているかどうかに大きく影響を受けます。卒業研究や大学院での研究においては、その過程を重視して指導し、研究チームも上記の専門分野の範囲以外でも、身

科学する心と物理教育

一方、これらの研究は、試料作成と測定の実験技術の進歩に支えられているため、この過程で使用される多くの物理現象、例えば、シュリーレン現象などの光の現象やフォトリクス結晶、単結晶化による様々な紋様形成等も研究対象で、専門分野のひとつです。具体的には、クジャクの羽や昆虫の一部、オパール等は、フォトリクス結晶による発色であり、ピタミンCなどの単結晶化（下図）では様々な幾何学模様を観測することが出来ます。これらの中の物理現象を解明、考察しています。

近な現象、例えば、野球のジャイロボールなど回転現象の中の物理や熱に関係することなども、出来る範囲で研究テーマとし、まるで探偵のように少し遠回りをしてでも途中過程を大事にしながら研究を進めていくようにしています。この体験をした研究室の学生には、高大連携の一環として、毎年自分の研究内容を、県立高円高校をはじめとして、高校生に実際に使用している実験装置を触ってもらいながら、わかりやすく教える活動を通して、高校生の目線から自分の研究活動を客観的に見つめ直して、さらに向上させていけるようにしています。多くの高校生は、今の授業内容が将来どのように役に立つのか、自分が大学に進学したらどう学問をするのかなどの疑問を持っています。先端的なことから身近なことまでの中から学生自ら選んだ卒業研究・修士研究テーマで研究することと実際の教育現場とが常にお互いに影響しあう接点が用意されていることが、通常の理工系専門学部と違い、この研究室の特徴のひとつです。さらに、日本物理学会以外に、日本理科教育学会や日本物理教育学会の近畿支部奈良県の理事を担うことで、常にか他の小中高大や世界での物理教育状況を把握し、そして学生とともに研究発表を行ったりしています。



研究室の学生らと

研究室は、場所がわかりづらいところにあります。常にオープンな心がけています。開講している教養科目と専門科目では、質問を常時受け付け、専門科目においては学生の希望によって補講を行っています。今年は、1回生と2回生の希望学生に行っています。さらに、物理学あるいはその教材を深く詳細に学びたい1〜3回生の学生対象にゼミを行っています。写真は今年の2回生のゼミメンバーです。4回生と大学院生もこのようなゼミに協力してくれています。学問以外の学生の将来のことなども含め、学生とともに試行錯誤しながら、けれど本当に楽しく私自身も勉強させてもらっています。

学生とともに

学生による研究室紹介

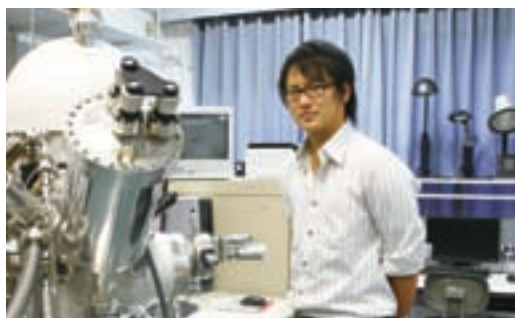
大学院教育学研究科 修士課程
教科教育専攻 理科教育専修 2回生

稲葉 豪志さん

中村研究室での学生の研究内容は、物理学の全般にわたっていますが、特に物性物理学の実験と理論が幅広く行われています。卒研生や院生は、通常の授業ではできない、実験で得られた結果に対してなぜそうなったのかを切磋琢磨して知識を増やしていき、その過程で新たな発見を見つける事により喜びや感動を得るという経験をしました。その喜びを知る事が大事であり、今後教師になったときにこの経験が生かされ、生徒た

ちにも感動を伝えられるはず。その経験をしたい。中村先生は、学生自身が持っている興味を尊重し、それに関する研究ができるようアドバイスをされています。私の場合は、勉強している過程で研究者になりたいと思ひ、現在、理化学研究所の播磨研究所Spring-8センターで、強相関系物質の実験をさせていただき、来年度、大学院の博士課程に進学するなど夢に向かって歩んでいます。

一方、中村先生は高大連携を積極的に行われ、今年は高円高校、奈良北高校、附属幼稚園で行われています。私たち学生も積極的に参加し、自らの能力の向上に努めてきました。このように中村先生は学生に対して親密に接してくださり、暖かく迎えてくれますので、研究室に相談に来る者も数多くいます。機会があれば一度見学に来て頂けたらと思います。お待ちしております。



ラボ・レター

科学する魅力

科学する心を育める楽しさ

理科教育講座 物理学分野
なかもと
准教授 中村 元彦



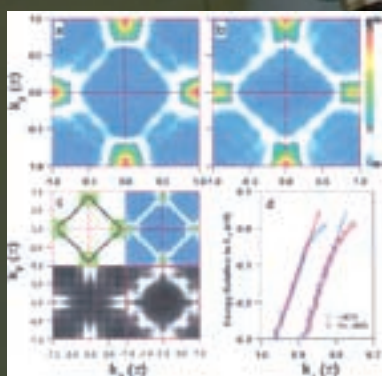
光を使って物質の中の電子の振る舞いを直接観る？

みなさんの周りには、多くの物質が存在します。例えば、金属の銅はなぜよく電気を流せるのか、ダイヤモンドはなぜ通常の金属より熱が伝わりやすいのか、物質はなぜその色なのか、等いろいろありますが、そのほとんどが物質の中にある電子がなせる技です。私の専門分野のひとつは、この電子そのものを、光を使って直接観る分光学という手法を用いて、高温超伝導、巨大磁気抵抗、金属―絶縁体相転移など特異で多様な物性を示す「強相関電子系」の発現メカニズムを、固体中の電子の量子力学・統計力学的振る舞いに基いて解明し、新しい物理現象を発見・予言することです。ローレンス・バークレイ研究所



単結晶化

のALSと一緒に実験させていただいた研究チームでのNd-SCOという物質の固体中の電子の分布の実験結果



X. J. Zhou et al.
Physical Review Letters 86, 5578



協力してくれた学生は、苦勞したようである。プランについては、略図では示すが、事細かに先回りしておしえることは、あまり好きではない。20キロ袋の粘土を150個ですから、それを附属幼稚園まで運ぶのは容易ではない。準備の3日間は普通小型ワゴン車1台とあとは台車3台で往復し搬入した。それでも積み下ろしは手で持ち上げるわけで、学生には重たい。地球の引力だから体の重心に引き寄せれば、と運び終わる頃にはみんなうまくなった。

ワークショップの前日の午後、彫塑研究室の院生が、「粘土の滑り台がへこんで滑ることができません。」と連絡してきた。滑り台の構造を箱椅子や、板材、合板、滑りやすいように梱包材のビニールに見直

すことに。滑り台のふちも粘土を布でまいてさらに粘土を盛り上げて工夫を考えさせた。

わすれものを届けに来たような

ねらいや、目標を超える反響のうちにあつという間にワークショップは、終わってしまっていた。園児の予想以上の喜びように、今までにない爽快感や満たされた実感をおぼえることができた。

安全面はあらかじめ配慮したが、実際のところ何が起るかわからない実験的なものでした。しかしながら、「昔はああたった。ではなく今やろうー」は、今もとめられている課題ではないでしょうか？ 幼児の時にこそ天然でダイナミックなあそびをやったほうがいい。



参加した学部生や院生ら

卒園記念作品に向けて

十月下旬には、美術学生と幼年教育学生とで年長組の園児個々に卒園記念作品をつくりまします。どんなオブジェが出来上がるか楽しみです。十二月には美術学生の作品と一緒に奈良市美術館「青丹彩展」で展示予定です。

現代のシステムやプログラムに枠づけされた教育は、本来の創造や表現といった情操の育みを窮屈にしているかもしれない。

幼児の全身泥だらけになって遊び作品作りをする姿に、なにやらわすれものを見つけた気がしました。

何もかも教えない

「幼稚園で3トンの粘土を使つてのどろんこワークショップ!」

すでに、どろんこの園児たちは、手の腹や腕で2メートル近いワニをつくって乗ったたり、塔を体で支えながら作っては倒したりと、考えていたイメージを上回る創作意欲に感心し、園児の粘土で体感して遊ぶ本能に驚く、すばらしい!

ただひたすら泥ボールにねころぶ子や、泥すべり台で繰り返し遊ぶ子、これもまた楽しみ方は自由。人間本来の素朴な「おもしろい」が、記憶となり将来の創造・発想の原点となつてほしい。

情操は体感して記憶に残す

玉村公三彦附属幼稚園々々、上野由利子副園長、年長組担当の長谷川先生、山本先生のご理解と幼年教育専修と彫塑研究室を中心とした美術専修学生の協力を得て、見切り発車、学長裁量経費の後押しも頂いて、いざ決行!

7月の青空の下、どろんこワークショップ始まりです。耐熱耐水シートを砂場の約3倍のスペースに敷き詰めて前日から浅いドロドロボールをつくっておきました。まず、手足からじゃぶじゃぶ足踏みで慣れもらい、どろんこすべり台でゆるゆる体験へと展開しました。歓喜の声にあらかじめ用意していたピグミー族のポリフォニーの音はかき消されていました。

いざチャレンジ!

あそびの本能を呼び起こす

泥だらけになって遊んでいることも近頃見かけなくなつて久しいような気がします。秘密基地あそびを、枝やひも板、段ボールでつくっているという情景にもしばらく出くわさない。虫捕り少年は、今もいるのか?

そのような、こともがもともとして持っているあそび本能を大事にしたいものです。

5年ほど前から、粘土まみれのドロドロヌルヌルができないものかとふと考えていました。できれば、幼稚園で試したいと思ひ、学部「幼児の造形」の授業で幼年教育専修所属の受講生にそれとなく何歳児なら可能かきいてみていました。前田喜四雄前附属幼稚園々々長にも打診をしながら、引き継ぎいただきました。



どろんこ ワークショップ

in 附属幼稚園



美術教育講座
教授 西野 慎二
撮影：山根千佳子准教授





違う国、同じ情熱

教員研修留学生
タン・シュー・リー

環境の違い

文部科学省の教員研修留学生として日本へ留学しに来てからもう一年になりました。未だに今の日本の生活を夢と勘違いしてしまうときがあります。私はシンガポールで七年間教師の仕事をしていました。学生にまた戻って研修する機会を持てたことに感謝しています。その上、若い時からずっと大好きな日本に留学出来て、とても幸せだと思います。

みやすいですが、ちよつとつまらないと思います。私の母国に比べて、日本の四季は本当に面白いです。各季節はそれぞれの特徴をもっており、楽しむことができます。例えば、秋の紅葉、冬の雪、春の桜、夏の蟬などです。すべてが美しくてシンガポールでは見ることができないものです。楽しく奈良で過ごすことで、季節ごとに必要となる物を買うことにも慣れてきました。その上、歴史ある奈良市に住んでいて、いつでも世界遺産や大自然、可愛い鹿を見ることが出来ます。幸運な私の留学生活は思い出が一杯で忘れられない経験です。

不安と焦りの授業の始まり

私は日本で第2外国語としてフランス語を勉強してきましたが、他大学のフランス語学科の学生や、ホームステイ経験のある学生とはあまりに力の差があることを当初から身をもって知ることとなりました。9月の留学生の説明会や授業では先生の言っていることが全く分からず、フランス語学科の友達たちに毎回尋ねていました。授業中は不安と焦りでこの一年間本当にやっていけるのだろうか？ということばかり考えていました。しかし悩んでいても仕方がない上、少しでも皆に追いつきたいという思いから、毎週火曜日の文法の授業が終わり次第、日本語学科の

フランス人の友達を呼んで授業で分からなかったこと、そして宿題の分からないところをお互い徹底的に勉強しました。この勉強方法はお互いの為になるので、フランス語を上達するための近道なのではないかなと思いました。

**留学の目的である
美術の知識を得るために**

私にとってこの留学で学びたいことはフランス語の文法全般、発音、そして何といても美術の知識でした。そこで、後期は必修以外では15世紀のイタリアなどの美術の授業と美学の入門の授業に出ていました。美学の授業は絵画だけで

留学生 レポート



留学体験記

～Lyonでの10ヶ月～

学校教育教員養成課程 身体・表現コース
美術教育専修4回生
(大阪府立池田高校出身)

品野 由美子



友達と行った祇園祭り

人々の同じ情熱

日本に来てからたくさんの人に助けられ、日本人の温かさを感じました。大学の先生、留学生担当職員、チューターやホストファミリーの皆さんはいつも喜んで手伝ってくれます。様々なボランティア団体も留学生の為にいろいろな活動を行ってくれます。日本人のクラスメイトも他の国からのクラスメイトも仲良くやっていて、お互いに学び合います。道に迷っている時も旅行している時も、親切な日本人は簡単な日本語と英語で会話して手伝ってくれます。

日本で教師になる道はシンガポールより長くて大変だと思います。シンガポールでは教育大学がありません。教師になりたかったら、初めに教育部に教師の申し込みが必要です。申し込み後、契約を交わすことで、教育専門学校に入ることが出来ます。教育専門学校で勉強している時は、給料を得ることが出来ます。もちろん、学費は必要ありません。卒業した後、教育部が卒業生を欠員の学校に派出し、そして、卒業生は契約の内容に従って勤めます。

シンガポールでは英語が第一言語で母語以外の科目は英語で教えられています。シンガポールでは英語を使う事が多くて英語がうまくなるのが早いです。日本では英語はあまり使わないですから、英語の教師になるということはとても大変な事だと思います。私はこの研修を通じて、先生とクラスメイトの皆さんからいろいろなことを習ったので、国に帰って今より良い教師になれると思います。皆さん、一緒に頑張らしましょう！

**フランスとの繋がりを
続けるために**

挫折から始まった私の留学生活は、多くのフランス人に助けられ最後を迎えることができました。この1年間は机に向かった勉強だけではなく、フランス人の友達と遊んだこと、彼らに鑑賞することができました。ヨーロッパに留学するとこのように本物の美術作品を生で見ることが出来るので、これもまた大きなメリットだと思っています。

また、イタリアのローマとフィレンツェを訪れ、授業で出てきた作品を直に鑑賞することができました。ヨーロッパに留学するとこのように本物の美術作品を生で見ることが出来るので、これもまた大きなメリットだと思っています。



休日を利用して美術作品を巡る旅

の家族とノエルを過ごしたこと、自分で切符を買っていろいろな国や地域を旅したこと、美術館で学んだこと、これら全ての経験が私にとっていい勉強になりました。海外で生活することは日本で生活するよりもほんの少し大変なことでしたが、フランスでの生活の良い面を、これから日本で生活する上で活かしていきたいと思っています。そして、この1年間で自分がどれだけ成長できたのか日本で実感できればいいなと思います。これからフランス語と美術史を勉強し続け、いつかまたフランスの地に足を踏み入れたいです。

自由の中で本気になれる



総合教育課程 文化財・書道芸術コース 3 回生
軽音楽部部长 **長井 太志**
(兵庫県立姫路東高校出身)

軽音楽部とは

私たち軽音楽部は、総勢36人で活動しています。活動形態は少し特殊なのですが、普段、全員で決まった時間に活動することはありません。やりたい音楽によって個人同士でバンドを組み、放課後や空き時間等、メンバーの集まれる時間にバンド毎で練習しています。使っている楽器も、ギターやドラム、キーボードやトランペットなど様々です。大学に入ってから楽器を始めた部員も多いですが、みんな楽しく活動しています。

主な行事は、年に4回行われる学内ライブ、夏に行われる合宿、大学祭ライブ、卒業生送別ライブです。ライブの運営は基本的に自分達で行うので、演奏はもちろん、裏方になる音響や照明等も部員が行います。普段、全員で集まることは少ないのですが、ライブを成功させるために全員が一丸となって、頑張ることが出来る部活です。

合宿では、いつもと違う環境で音楽に集中したり、みんなで遊んだりします。今年の合宿は小豆島に行きました。音楽に真剣に取り組み以外にも、合間を縫ってみんなで海に行ったりと、とても充実したものでした。

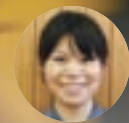
軽音楽部の魅力

多くの人の前で演奏するライブが、軽音楽部の活動の醍醐味だと思います。日頃の練習の成果を発表する場もありますが、何よりその空間にいる人たちと、音楽という一つの楽しみを共有することに意味があると、私は思います。ただそこにいて耳を傾けるだけで、同じ時間、同じ楽しみを共有できるのは、やはり音楽ならではの楽しみです。そのために部員みんなは、自由な活動の中で、個々のペースで着実に努力しています。

軽音楽部の今後

現在、奈良県下8大学の軽音楽部が合同で「NARASONIC」というイベントを毎年秋頃に企画しています。3年前から始まったこの企画は年々規模を増して、今年は遷都1300年祭のイベントとして、奈良公園内でライブを行いました。学内ライブが主となる軽音楽部の活動の中で、大学の垣根隔たりを越えて、音楽で繋がることはとても刺激になるしとても素晴らしいと思っています。私達は出来るだけ多くの人にライブを楽しむに来てほしいと思っています。せっかく学内でもライブをするのだから、もっと多くの人と音楽を共有したいです。だからぜひ一度私達のライブに足を運んでみてください。

互いに成長することのできる場



総合教育課程 文化財・書道芸術コース 3 回生
剣道部主将 **森 和泉**
(愛知県立時習館高校出身)

週3回の活動でメリハリを

私たち剣道部は、4回生3人、3回生2人、2回生3人、1回生4人で活動しています。体育館横にある剣道場で、毎週火・木・土の週3日、稽古に励んでいます。人数は多くはありませんが、先輩・後輩間の仲も良く、和気あいあいとした部活です。5月に行われる関西学生剣道選手権、9月に開催される関西学生剣道優勝大会を始めとして、年間を通じて多くの大会に参加をしています。良い成績を残すことを目指して、互いに競い合い、高め合いながら日々精進しています。また、お花見や合宿、大学祭への出店や旅行など、多くの行事があり、みんなで楽しむことのできる部活です。

得られるものがたくさん

剣道は礼儀をとっても大切にする武道です。仲の良い部活であると同時に、目の人を敬う姿勢が自然と身につきます。とはいえ、稽古中は先輩後輩の隔てなく、夢中で相手にぶつかっていきま。この、相手を敬いながらも思い切りぶつかっていきけるというのが、剣道の面白さだと思います。やればやるほど奥が深く、悩みながらの毎日ですが、それもまた剣道の醍醐味です。そして、そんな時助けてくれるのが周りの仲間です。良いところも悪いところも互い



部員たちと

に見合って、共に考え、上達を実感した時の喜びは得難いものです。剣道や多くの行事を通して、仲間と共有することの出来る時間はかけがえのないものであり、一人ひとりが人間として成長していくことの出来るこの経験は、学生である今だからこそ得られるものだと思っています。

今年残す大会は、あと二つです。それらを目標に、これからの稽古により一層励み、悔いを残さないようにしたいです。受験生の皆さんも、今が正念場だと思いますが、悔いの残らないように頑張ってください。皆さんが明るい春を迎えられることを願っています。

また来たいと思える大学祭に

総合教育課程 文化財・書道芸術コース 3 回生
大学祭実行委員会副委員長
熊澤 綾香
(岐阜県立多治見高校出身)



今年の輝燐祭のテーマ「1300年続く感動を!!」は、現在この奈良の地を賑わせている平城遷都1300年祭に合わせ、今後も皆様に感動を与え続けるものであつてほしいという願いから発案されたものです。

私たちは、昨年の輝燐祭が終了してまもない12月に新体制を発足し、それから約1年間、この輝燐祭のために日夜活動を続けて参りました。

「また来たい」とご来場されたすべての方々に思っていただけのような、そんな心のこもった大学祭を作りたいと思い、今日に至ります。その中には勿論、楽しかったこともあれば、苦しいこと、辛いこともありましたが、仲間と一緒に乗り越える

ことによって自分自身も成長できましたし、またその度には先輩の成長も感じてきました。単なる「仕事仲間」だけの関係から、徐々にそれ以上の固い絆で結ばれつつあり、家族のような、兄弟のような、そんな一体感を感じるようになってきました。今後も、大学祭実行委員会の活動を通して得た経験を大切にしながら、日々邁進していきたいと思っております。

最後になりましたが、第61回輝燐祭のために尽力してくださった全ての方々に、厚く御礼申し上げます。

多くの方のご来場をお待ちしております。



奈良教育大学 大学祭
『輝燐祭 ～1300年続く感動を!!～』
平成22年10月28日(木)～30日(土)

活躍する奈良教育大生

体育系

◆硬式野球部

第48回近畿地区国立大学体育大会
野球 準優勝

平成22年度近畿学生野球連盟
春季リーグ戦 11部リーグ
ベストナイン 一塁手
三谷純平(教育学部 2回生)

◆準硬式野球部

第48回近畿地区国立大学体育大会
軟式野球 第3位

◆バドミントン部

第35回近畿教育系大学バドミントン大会
男子団体戦 優勝

第35回近畿教育系大学バドミントン大会
女子団体戦 第3位

関西学生バドミントン連盟秋季リーグ
男子団体5部昇格

第35回近畿教育系大学バドミントン大会
男子ジュニアシングルス準優勝

西久保 稜哉(教育学部 1回生)

第35回近畿教育系大学バドミントン大会
男子シングルス優勝
塩 祐亮(教育学部 4回生)

第35回近畿教育系大学バドミントン大会
男子ダブルス準優勝

塩 祐亮(教育学部 4回生)
藤原 龍太郎(教育学部 4回生)

◆女子バレーボール部

第48回近畿地区国立大学体育大会
バレーボール 第3位

◆陸上競技部

第48回近畿地区国立大学体育大会
陸上競技400mハードル 第3位
杉岡 輝季(教育学部 2回生)

◆男子バスケットボール部

平成22年度
関西学生バスケットボールリーグ戦
四部B 準優勝

平成22年度
関西学生バスケットボールリーグ戦
四部B 敢闘賞
峠 和貴(教育学部 4回生)

文化系

第15回全日本高校・大学生書道展
書道展大賞
小島 美春
(大学院1回生)

藤本 修弥
(教育学部 4回生)

柳澤 美希
(教育学部 3回生)



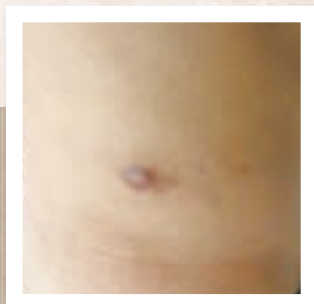
バドミントン部 塩 祐亮
男子バスケットボール部 峠 和貴
硬式野球部 三谷 純平



バドミントン部 柳澤 美希 藤本 修弥 小島 美春



獲物を探すヤマビル



無理に剥がした傷跡1年経っている



ダニ(種名は不明)

奈良に息づく 仲間たち

自然環境教育センター長
教授 鳥居 春己



ヒルとダニ

ヒルとダニは本学の仲間たちの新人と言えるだろう。最近になって、彼らの犠牲者が学内で出始めている。特にヒルはシカが連れてきたと思われる。奈良公園はヒルの巣窟で、春日大社参道脇の湿った所はヒルだらけなのだ。ヒルは環形動物で、標準和名はヤマビルという。皮膚に取り付いて吸血する。唾液には麻酔成分が含まれ、痛みを感じないし、凝血防止のヒルジンにより、傷口はなかなか固まらない。しかし、ヒルによる病原等の人への感染は確認されていない。ところが、ダニは人畜共通感染症などを媒介する。ダニは節足動物のマダニ類で、奈良公園にも多くの種が棲息しているらしい。ダニが体に着いて吸血している時、無理に剥がすと頭部が残る、そこから雑菌が入り込み、傷跡が残ることもある。病院で取ってもらうのが確実だろう。吸い終わって、落ちるのを待つのも良いが、数日かかることもある。その場合も、感染症の検査のためダニを捕獲しておく方が良い。こんなヒルとダニだが、本学のイメージキャラクターはシカをモチーフにしているのだから、シカが連れてきた彼らも仲間として、受け入れようではないか。

自然環境教育センター <http://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/>



奈良教育大学 広報誌

第35号 平成22年10月27日 編集/広報・情報公開委員会 発行/国立大学法人奈良教育大学
〒630-8528 奈良市高畑町 TEL. 0742-27-9104 FAX. 0742-27-9141
<http://www.nara-edu.ac.jp/>

企画・広報室までご意見・ご感想をお寄せ下さい。
お寄せいただいた方の中から抽選で「なっきょんストラップ」を差し上げます。
【奈良教育大学 企画・広報室】kikaku-kouhou@nara-edu.ac.jp



なっきょん's CLUB

スタッフ募集のお知らせ

広報誌づくりなど、広報活動を手伝ってくれる学生広報スタッフを募集しています。
興味のある方は企画・広報室まで、お気軽にお問い合わせ下さい。